



調布稲門会 会報

2023.7 第58号

年2回(1月、7月)発行

事務局 石田欽也方

Tel 080-1021-9105

Fax 042-487-6872

E-mail toumonkai@gmail.com

URL (HP) <https://tohmonchofu.jimdofree.com/>

編集責任者 潮田 健太郎



第42回 定期総会

会員 45 名が集う

編集部 原田敦夫 (1977 法)



2023年5月20日
(土) 15 時より、
2023年度(第42回)
定期総会が「たづく

り」12階大会議場で開催されました。昨年は、まだコロナへの懸念が拭いきれず、来賓の招待や講演会も実施されませんでした。今回はそれらも含めたフルバージョンで開催することが出来ました。

会員 45 名が参加し、長友貴樹調布市長、大学校友会、調布三田会、近隣の三多摩支部稲門会、早稲田祭運営スタッフの現役学生といった22名の来賓の参加もありました。



総会では山田会長を議長に選任し、活動実績・計画、収支決算・予算、役員・幹事人事案等の議案が可決されました。3年10ヶ月に亘り会長を務めてきた山田和子会長が退任することとなり、萩原稔新会長が選任されました。





会長退任挨拶

前会長 山田和子 1974 文

今回の総会にて退任致しました。2019年岡田会長が2期目に入り、2年後は次世代にバトン渡しと安心して6月にイルクーツクとウラン・ウデに旅行、帰国の日に岡田会長の訃報に接しました。ここで逃げたら一生後悔すると覚悟し会長を引き受けました。幹事長の芦澤さん、その後を引継いでくださった石田さんと共に、コロナという予想外の難局にも、コロナでも出来る事、コロナだから出来る事、そして就任挨拶で述べた皆様のオアシスとなれるような活動を可能な限り実践しました。

以下は役員・幹事の真摯な取り組みです。迂闊にもパスワード未共有で更新不能となった岡田会長開設・運営のホームページを、広報委員長の多大な労力により、営々と蓄積されたコンテンツを全て移植し再構築、内容の更新、会内外への発信が再開されました。紺碧の編集担当も世代交代、第55号(2022.1発行)から新スタッフにより順調に発行されております。7年もの間編集を担当された高原先輩に感謝申し上げます。担当者の苦勞の甲斐あり創立40周年記念小冊子がとても良い仕上がりとなり、皆様にお届け出来ました。(2021.10)会計担当には、会員個別補助簿・立替金精算処理の電子化に取り組んでもらいました。また7年に渡り気候の厳しい折も戸別ポステイングに従事して頂いた皆様有難うございました。挙げればきりがありませんが、皆様に支えられ何とか3年10か月の任期を終えられたことに深くお礼申し上げます。最後となりますが、萩原新会長のご活躍をお祈り申し上げます。

総会記念講演会 日本と国際的なビジネスとしての スマートシティ

編集部 川嶋菊枝 1983 文

講師の岡村久和氏は、1978年早稲田大学商学部卒、日本IBM(株)に勤務、その後は国際的なスマートシティの第一人者として、国内外の多くの街作りを支援してこられました(当会会員)。

スマートシティというと、日本ではハイテクを駆使した商品やシステムが連想されますが、国際的には総合的な機能を備えた街造りプロジェクトの事であり、多くの日本企業が各々の技術を生かして「団体戦」で挑戦しており、成功を収めています。国内でも、700を超える駅前再開発やニュータウンの開発が、スマートシティの事例であり、日本人が気づいていない日本の価値です。

調布市では、駅前再開発や京王線の地下化、スポーツスタジアムの建設、道路や区画の整備など、まさに国際的なスマートシティとしてのまちづくりが進められています。

調布稲門会に期待することは、調布が最高レベルのスマートシティであることに誇りをもっ

て、多くの世代に日本がスマートシティに溢れている国だということを広めてもらう事です。



講演内容は調布稲門会 HP よりダウンロードできます。

笑顔があふれる懇親会

川嶋菊枝

総会、講演会に続き、アクリル板なし、正直屋さんによるビュッフェ形式で、懇親会がスタート。開会の挨拶、会長の挨拶に続いて、早稲田大学校友会東京三多摩支部担当の塩月恭課長と長友市長よりご挨拶をいただき、調布三田会の米持一夫会長の音頭で乾杯。その後はなごやかな歓談の席となりました。

稲門祭の告知や早稲田大学応援基金寄付のお願い、稲門祭記念品の紹介と購入のお願いが行われました。また、今回の総会開催の手伝いをしてくれた早稲田祭2023運営スタッフの学生3人から、早稲田祭の広報と支援の依頼がありました。

アトラクションは、恒例の潮田副会長のピアノ弾き語りと、岡村久和氏のギター弾き語り披露されました。宴もたけなわとなり、ビンゴゲームでさらにヒートアップ。嶋田幹事による「人生劇場」のあとは、応援部の3人のリードで、全員起立してマスクなしで校歌斉唱、エールが行われ、参加者皆さんの笑顔がいっぱいの中でのお開きとなりました。



新会長就任挨拶

萩原稔 1980 教



5月20日開催の第42回調布総会で8代目の会長に選任されました。歴代の会長に恥じぬよう稲門会の発展に努めたいと存じます。直近の山田前会長にはまさにパンデミックの中での舵取りとなり、そのご苦勞とご尽力に感謝申し上げます。

私は2017年に入会、2019年に幹事の仲間入りをし、主に地域貢献の担当として皆様にお願いや情報発信をしまっていました。今度は会長として引き続きのご支援、ご協力を宜しく申し上げます。

運営母体の幹事会は、幹事の皆さんの時間を割いての活動でもあります。負荷軽減も考慮しながら相互協力の意味合いも込めてグループ制とし、横断的に運営することにしました。至らぬ点もあると思いますが、フラットな組織でふらっと誰でもが参加できる稲門会活動にしたいと思えます。幹事、会員の隔たりなく是非一緒に盛り上げていただければ幸いです。

時代は違えど、同じ早稲田の杜で学び遊んだ仲間として地元で親睦を深め、それをエンジンに地域社会への貢献や母校の発展に協力できればと思えます。引き続き宜しく願い申し上げます。

会運営の組織変更に関して

副会長兼幹事長 石田欽也 1980 商

ここ数年間、呼称は変われども幹事会の中に複数の「委員会」を設置して会の運営にあたってきました。しかし、「委員会」という呼称は堅苦しいのではないかという声があり、役員会や幹事会で意見交換し「委員会」ではなく「グループ」という緩めの形に変更することを総会に上程しご承認いただきました。

改めて会の意義を考えますと、会員の皆さんが、同好会活動やイベントを通じて交流し和気藹々とした雰囲気を楽しみ、人生を謳歌することではないでしょうか。総会で印象深かったこととして、ある大先輩が帰り際に「これで10年寿命

が延びた」と仰いました。歓談や、調布の街に棲む素晴らしさを再認識できた講演や、応援部リーダーのアトラクションに、元気を貰われたのだと思います。総会運営を企画した幹事長として嬉しく、最大の賛辞を頂戴したものと感じています。会の運営を「こなす」ことが目的ではなく、会員が楽しみ元気になるシーンを自然な形で創出する。そんな意識を幹事間で共有し、会の運営に務めて参ります。

（グループとその担当幹事つきまちは、会員の皆様に配布しております総会資料をご参照ください）

地域貢献活動

2023年度地域貢献活動計画（昨年度の実績を踏まえながら）

萩原稔

日頃のご理解、ご協力に感謝申し上げます。今年度は次のような活動を計画しております。

①多摩川、野川クリーン作戦の参加による環境美化活動の継続と活動後の懇親の集い。②食の貢献について、昨年度のフードバンク調布との連携（有志による25,555円の募金とフードドライブ参加）から方向性を変えて、今年度は「食を通じたこども支援」として市内のこども食堂との連携を進めていきたいと計画しています。③福祉まつりについて、昨年度はバザー販売が見送られ、有

志による協力金（98,666円）を募金する形式で参加しましたが、今年度はバザー販売も含めた形式に戻ると予想されます。ウィズコロナの現況下において参加形式を社協と連絡を取りつつ決定していきたいと考えています。④それらに加え、今後継続できるような新たな活動も検討していきたいと思えます。

会員相互の親睦を図れる貢献活動に取り組んで参りますので引き続きのご支援、ご協力を宜しく申し上げます

地域貢献活動 多摩川クリーン作戦

堀井時枝 1966 教

4月9日日曜日8時、絶好のクリーン作戦日和。多摩川にかかる京王線の橋の下の広場には溢れるほどの人が参集。

恒例の長友市長の挨拶「44年間春秋2回(災害コロナ禍で中止もあったが)近隣住民のみならず在調布の企業関係者も参加するなど他には見られない活動である。また河川敷を利用する野球サッカーなどの子供達の参加も多く教育的見地からも有意義なイベントである」のあと、ビニール袋ゴミ拾いトングを持ってゴミを探す、ゴミの数より人の数が多くまるで宝物探した。見つけた子供の弾んだ声が響く。川風が心地よい。川の上の空は広いし、遠く山並みも見える。多摩川がこの調布を流れる恵みを思う。次回、ぜひ参加して見てはいかがでしょうか！



同好会活動

DISCOVER FOOD ブラ多摩霊園

春の多摩川クリーン作戦のあと
調布稲門会の仲間6人で多摩霊園散策

吉田由紀 2002 文

4月9日(日)、雲一つない快晴。新緑の多摩霊園散策にご一緒させていただきました。10時頃霊園正門前で合流し、地図でルートを確認していざ出発。東京ドーム27個分に相当する広大な敷地には、多くの歴史的な人物や文化人が眠っています。今回はゾルゲ、三島由紀夫、与謝野晶子、岡本太郎、長谷川町子、東郷平八郎、山本五十六などの偉業や足跡を辿りながら、東側10区画を4時間程かけて参りました。人となりを感じるエピソードを語りながら、一人一人の人生がより鮮やかに、一層身近に感じられる貴重なひとときとなりました。季節ごとに自然も楽しむことができる多摩霊園、また諸先輩方と一緒に故人を偲びに訪れたと思います。



岡本太郎の父母もすぐ近くで優しく微笑みながら眠っている。



岡本太郎と妻敏子の墓。両親の方角を見て微笑んでいる。

ウォーキング同好会ゲリラ企画 昭和記念公園お花見会(4月6日)

編集部 潮田健太郎 1977 理工院

調布稲門会行事のお花見会は雨で流れてしまったが、そんな事で簡単に諦めないのが、さすがウォーキング同好会リーダーの天野さん。明日は好天だ！思い立ったが吉日と、メールで参加を呼びかけ、平日だけどノリ良いメンバー6名集合。

当日(4月6日)は絶好の天気。桜もまだ十分盛りを保ち、手入れの行き届いた広大な敷地に色とりどりの花が咲き乱れている。バエるインスタをとる若い娘達、桜の木の下で和服モデルの撮影、その足元で昼寝をしておっさん、などなど。

我々も花に浮かれ、とりとめのないお喋り、草上の昼食など、春爛漫を満喫。

実はわたくしの妻も参加したのですが、おかげさまですっかり皆様と打ち解けてました。

帰りはモノレールで高幡不動経由。富士山が見えるとはしゃぐ我々は、他の乗客から完全に浮いてました。



草上の昼食



ノリの良いご一行

ボランティア・ネットワーク 〈ニックネーム Bor・n〉(ボーンと読みます) 令和5年度の活動

坊野美代子 1978 教

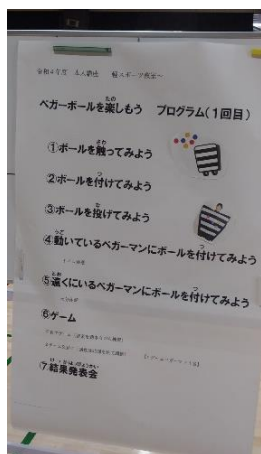
コロナ5類移行で日常が戻りつつありますが、3年以上にわたる規制期間は本当に長いトンネルでした。Bor・nも今年から徐々に活動を開始します。

主な活動は、調布を中心とした地域に暮らす障害のある子供たちへの理解と、私たちにできる支援です。都立調布特別支援学校(電気通信大学の並びにある家具屋さんの隣の学校)で、10月に「ペガボールで遊ぼう」という子供たちのための土曜活動があります。この土曜活動のお手伝い(ボランティア)を予定しています。昨年初めて体験しましたが大変簡単かつ楽しいゲームでした!!3回シリーズですので、御都合のつく回にご参加ください。詳細は近くなりましたらBor・n通信で御案内いたします。

また、障害理解のための講演会も企画したいと思っていますので、好奇心と大いなる関心を持っていただきご参加いただけるとありがたいです。Bor・n通信は、同好会に関心を持ってくださる方にメールで送信しています。

お問い合わせは坊野のメールアドレスまで。

坊野メール：
miyo.bono@gmail.com



ゴルフ同好会 初夏のゴルフコンペ

芦澤友雄 1974 理工

2023年6月15日山梨県の上野原カントリークラブにて開催され、12人(男性11名、女性2名)が参加しました。例年は春と秋に開催している稲門会ゴルフコンペですが、今春は調布三田会との親善コンペが中止になったため、臨時で6月にも開催しました。雨が危惧されましたが、午前中はくもりで持ちこたえ、午後は予想通り雨に降られました。今回は、田中幹也さんの奥様も参加され、女性2名を加えて華やかなコンペとなりました。優勝は、グロス89で毎週練習を欠かさない田中幹也さん、準優勝は、育児の合間を縫って参加してくれた山田あかねさん、3位は年齢90歳に近い鉄人望月秀雄さんと実力者が順当に入賞されました。

プレー終了後には懇親会を行い、和気あいあいと反省会を行い、楽しいゴルフ談議に花を咲かせました。参加賞には恒例の稲門祭記念品の稲門会マスコットワセダベアのゴルフボールを贈呈しました。

次回は、9月の稲門会秋のコンペ、11月には久々に調布三田会合同コンペと予定されており、再戦を誓って散会となりました。



集まり散じてまた集まり 新入会員紹介

服部 純奈 2002年 第二文学部 飯田風越高校
趣味：クラシックバレエ(27歳で始めました。最近では娘の付き添い担当になっています…)

「年次稲門会(2002年次)の設立に携わりましたが、地域稲門会は初入会です。子育て中で職場(社労士です)も調布市です。地域内での交流を楽しめたらと思っています。」

高山 真由子

2011年 政治学研究科ジャーナリズムコース
佼成学園女子高校(慶應義塾看護短大)
趣味：サイクリング

敬称略ご本人の希望により記載しない項目もあります

「大学院の2年間を早稲田で過ごしました。短大が慶應、大学院が早稲田というちょっと変わったキャリアです。よろしくお願ひ致します。」

星 香里

2020年 教育学部 嵯峨野高校
趣味：スイーツ巡り、漫画、(社会人になってから)旅行

「よろしくお願ひいたします」

昨年まで、長きに亘り『紺碧』の編集長を務めた高原浩さんに思い出を綴って頂きました

特集・紺碧“編集長”7年の記憶 企画記事取材で出会った忘れ得ぬ人々

高原 浩 1969 法

「照一隅」を編集理念に

最も尊敬する人物の一人に故中村哲医師がいる。2019年末にアフガニスタンで銃弾テロに倒れた方。長年現地に溶け込み医療・用水/治水事業などで超人的な業績をあげた。不毛の地で人知れず熱意と努力を傾け、現地では「カカ・ムラト」(中村のおじさん)と慕われた。シャイだが、いかにも気骨ある九州人の中村さんらしい。少年期に洗礼を受けたクリスチャンだが、座右の銘が天台宗の教え「照一隅」だという。(紺碧第51号編集後記)。最澄の言葉「照千一隅此則国宝」は地元深大寺境内の大きな石碑にも刻まれている。全国、世界の隅々で活躍するわが早稲田人の姿にも通ずるような言葉だと常々感じ、実は会報「紺碧」の編集方針もその理念をいつも念頭に置いてきた。さて、紺碧“編集長”を引き受けて約7年、活動の中で実に多士済々、多くの皆さんとお会いできた。調布稲門会の活性化に沿った紙面改革で始めた巻頭特集(第43号開始)では多くの方々と触れ合い、また人もの連載企画「調布稲門人」(第49号開始)ではまさに「照一隅」の“縁の下の力持ち”との交流も深まった。担当した7年間、15号分(第39号～第53号)、人物取材やら、現地ルポやら、幹事会その他の会合出席やら調布稲門会での出会いを通じて印象に残った人、忘れ得ぬ人、エピソードをほんの一部だが、記してみたい。

印象に残る調布稲門人登場人物

「調布稲門人」の人物取材は最も印象に残る。日経本紙産業面の人物コラム「経済人」的なものをイメージしてネーミングした。「市井の人」「陰の善行」「並外れたボランティア意識・活動」をまず切り口にして「特異なキャラと異能」の持ち主にも登場してもらった。

初回の「調布市オンブズマン舟久保賢一弁護士」(第49号)を皮切りに「いぶし銀の民生委員関口憲三さん」(同)、「オカリナ慰問の松野宏さん」(第50号)、「崖線緑地保全活動の野村大也さん」(第51号)「知的障がい児童の支援活動、嶋田浩一さん」(第52号)「異色のジャズピアニスト・IT技術者、潮田健太郎さん」(第53号)と続く。真面目にコツコツと地道に活動して人に喜ばれ、評価されている人ばかりだ。

舟久保さんには神田錦町の事務所でお会いし、取材後、隣中華料理屋で昼食を一緒にしながら、小生もよく知る神田界限の話題に花を咲かせた。

事務所は奥様と2人で切り盛りされていて、司法試験浪人時代の苦労話にも共感を覚えた。また松野宏さん、高齢者に特技のオカリナを演奏して喜ばれる。調布、世田谷の2カ所で今も継続中。クリスチャンの松野さんならではの感銘を受けた。稲門会の「キテネ活動」(第46号)責任者として活躍したミッションが終了した今、これが新たなミッションのようだ。



「福祉ボランティア特集」(第48号)で“主役”にお願いした坊野美代子さん、直後スタートの調布稲門人には登場して頂かなかったが、障害のある子供たちとの触れ合いボランティアに打ち込む坊野美代子さんの奮闘も近くで拝見して特筆に値した。



椎原、岡田元会長忘れ難し

椎原大典、岡田文男元会長のことも忘れ難い。お二人とも残念ながら故人となられたが、それぞれ特異な個性で活動を牽引した。椎原さんは副会長時代、パルコの駐車場管理のアルバイトをされていてよく出くわした。小生の買い物レシートを確認する椎原さんのかくしゃくとしたお姿が目には浮かぶ。小生の会社の先輩で同窓の牧久氏(ノンフィクション作家)が椎原さんの大分県人会学生寮の仲間ということで、牧さんが新刊出版するたびに電話を頂き親しくして頂いた。晩年、埼玉に引っ越す間際の新年会だったか「調布が好きだし本当は行きたくない」としんみり話されたことが脳裏に残る。一方、岡田さんは母校のウェイトリフティング部OBだそうで、小生の会社にいた先輩部員のことを尋ねられたのを機に随分親しくさせてもらった。「稲門会・三田会交流特集」(第

50号)を編集するにあたって三田会との関係全般について長時間、詳細なインタビューに応じて頂いた。手元に残る音源で今回、改めて聞いてみて岡田さんのおっとりした口調だが明快な応答ぶりが懐かしい。

林初代会長ギリギリ登場

番外だが「40周年記念号」(第54号)の巻頭特集は山田和子前会長が林貞夫初代会長にインタビューする画期的な企画となった。当初はお二人の面談による対談、小生が立ち会うような構想だったが、コロナ禍でもあり結局、山田さんが電話でのインタビューアーを引き受けて下さった。林さんはその後まもなく亡くなられたため、林さんの貴重な話をギリギリのところで山田さんに引き出してもらい、記録できたのは良かった。



貸切り都電に大はしゃぎ



「女子力特集」(第45号)と「女性会長2人目」(第52号)では、調布稲門会が女性会員の活躍なしに語れないと感じ特集を組んだ。山田さん代表の「女性の会」(当時)主催の早稲田界限と都電荒川線車両貸切ツアー」に取材を兼ねて参加。参加者30人、みんな笑顔で小学生のようにワイワイガヤガヤ、チンチン電車の旅を満喫した。乗車前の腹ごしらえで蕎麦屋の金城庵に上がり椎原さんや山田さん夫妻、堀井時枝さん夫妻らと親しくよもやま話をしたのも懐かしい。

また年末恒例の「2019福祉まつりバザー特集」(第46号)では時ならぬ「早慶戦」と化した模様を報じた。テントは隣り合わせ、稲門会、三田会の幟が競い合うように林立し、激烈な呼び込み合戦の中、その模様を特集写真にと撮影も大わらわだった。陣中見舞いの林さん、椎原さんに堀龍之介さん、山田さんらも加わり記念写真をパチリ。山田さんの発案だったと記憶するが、真にいい写真が撮れたと思う。

椎原大典氏ご逝去追悼文

第5代調布稲門会会長椎原大典氏が、1月にご逝去されました。

心よりご冥福をお祈りするとともに、縁の深い方から追悼のお言葉をいただき、掲載します

堀龍之介 1963 理工

彼、椎原大典兄は九州男児と思う。例え九州生まれでなくても生き方が、そのままでした。彼は、新幹線生みの親の十河信二氏(愛媛県生まれですが)を敬服し、似ているところを感じました。

私が思うところあって、稲門会会長選に推薦し、気持ち良く立候補してくださいました。河野・元木両会長の役員を務められ、稲門会に貢献されました。その姿勢に感激し、幹事長をお受けしました。その個性ゆえ異論もありましたが、2年間(2015、2016年度)会長職を全うされ、稲門会を改革されました。

会長職を辞められてから、麻雀同好会や飲み会に参加され、お元気のようにでしたが、二度ほど脳梗塞を患い病院と喧嘩しつつの生活でしたが、病に勝てず、娘さんのいる埼玉に引っ越され、再三、入院され最後は、ご自分で退院し、「自分の思うように生き、大往生でした」と奥様から訃報をいただきました。ご冥福をお祈りいたします。

山田和子

「山田さん、良かったよ。」「有り難うね。」椎原さんの温かい包み込むような声が今でも耳に残っている。

手がけたことが良かったのかどうか誰からもコメントをもらえない中、椎原さんは言葉にして返してくれ、励ましてくれた。ただ話はいつも最初から順番に紐解かれ非常に長かったがそれも今では懐かしい。

埼玉のご家族の近くに引っ越されても時々電話を頂いた。2021年7月設立40周年紺碧記念号発行の頃もお電話があり、巻頭記事「林初代会長と私とのインタビュー対談」の感想をお聞きした。「読んだよ。」の一言だけのお返事だった。いつもは感想を述べられるのに、もう読めない状況なのは理解できた。そしてそれが最後だった。調布稲門会会長を2年間務められたことを誇りにされていたと奥様から伺った。ご冥福をお祈りいたします。

広報・組織活性化グループ担当新任幹事挨拶

谷田 昂宏 2006 教

この度、新しく広報担当幹事の役を仰せつかりました谷田と申します。2006年教育学部卒で現在40歳、同年の妻と1歳を迎えたばかりの息子の3人家族です。調布稲門会の中ではかなり若い世代になるかと思ひます。調布稲門会に参加させていただき、周りを見渡すと私の両親と同年くらい、あるいはもっと上の先輩が活躍されていて非常に刺激を受けます。是非とも皆様にはご自身の息子、と思つて可愛がっていただければ幸いです。

まだこうして行きたい！というのはありませんが、今後はこれまで先輩方が積み上げてきてくださった伝統や文化を大事にしつつ、調布稲門会が今後も継続して活動していくように、新しい風を吹き込んでいきたいと思ひます。

会費納入のお願い

令和5年度調布稲門会 年会費お支払いのお願い 会計担当

令和5年3月末で前期の会計年度は終了となりますので、今期分まだ払い込んでない方は次の口座にお願いします。

①ゆうちょ銀行総合口座 記号 11300 番号 07777481 早稲田大学校友会調布稲門会 ②みずほ銀行調布支店 普通 0997965 調布稲門会

<p>深大寺そば 創業文久年間 ご宴会・俳句会・御法事</p> <p>元祖 嶋田家</p> <p>住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町5-12-10 電話 042-482-3578 FAX 042-499-6655</p>	<p>～～個人の方も法人の方も～～</p> <p>明石会計事務所</p> <p>税理士 明石 純一</p> <p>〒182-0026 東京都調布市小島町2-46-5 電話 042-486-6545 FAX 042-486-6123 https://www.akashi-office.jp</p>	<p>林建設株式会社</p> <p>取締役社長</p> <p>林 清一</p> <p>住所 〒182-8512 東京都調布市小島町2-56-3 電話 042-486-1111 FAX 042-486-1120</p>
<p>旭化成建材(株)指定工務店 外壁塗装・屋根塗装</p> <p>株式会社住まいるスズキ</p> <p>代表取締役 鈴木 光孝</p> <p>〒182-0023 東京都調布市染地3-5-65 電話 0120-080-242</p>	<p>新技術 UV プリント 立体物などにフルカラーでダイレクト印刷 記念の贈答品やオリジナル製品をお求めの方に 名刺・ショッピングカード・ポストカード 記念誌・自費出版・アルバム等</p> <p>印刷 株式会社 内田平和堂</p> <p>☎ 03-3300-7301</p>	<p>イベント・パーティー</p> <p>(株)正直屋グループ</p> <p>住所 〒177-0033 東京都練馬区高野台 2-4-27 電話 03-3909-1171</p> <p>http://www.shojikiya.co.jp/</p>
<p>相続を争族にしないために、 公正証書遺言をお勧めします。</p> <p>行政書士堀内綜合法務事務所</p> <p>行政書士 堀内正之</p> <p>〒182-0035 東京都調布市上石原3-12-8 電話・FAX 042-499-1300 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>舟久保法律事務所</p> <p>弁護士 舟久保 賢一</p> <p>住所 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-8 親和ビル5階 電話 03-6273-7917 FAX 03-6273-7918</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼</p> <p>調布クレストンホテル</p> <p>住所 〒182-0026 調布市小島町1-38-1 調布バルコ8~10F 電話 042-489-5000 FAX 042-489-1106 http://www.crestonhotel.jp</p>
<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問</p> <p>元木 勇</p> <p>自宅 〒182-0003 調布市若葉町2-22-10 電話 03-3300-4554 FAX 03-3300-8728</p>	<p>新しい食文化を創る</p> <p>株式会社山田屋本店</p> <p>代表取締役社長 秋沢 淳雄</p> <p>住所 〒182-0024 東京都調布市布田2-1-1 電話 042-482-4585 FAX 042-482-4572 http://www.okomekan.net/</p>	